

ダービー

< 亀AI注目馬 >

1, 4, 6, 7, 12

< 最終見解 >

昨年勝ち馬のドウデュース、
2着のイクイノックスはどちらもトニービンを持つ馬。

今年のオークスもトニービンを持つ馬が 1-3 着を独占。

ここ数年、この時期に行われる東京芝 2400m は
トニービンを持つ馬が特に走りやすくなっています。

本命はハーツコンチェルト。

父はハーツクライ。その母父がトニービン。
トニービンを持つ馬のなかでもハーツクライは
特にダービーに相性がいいです。

一昨年 2 着のエフフォーリア、
2020 年 2 着のサリオスもハーツクライの血を継ぐ馬。

母は米国型血統アンブライドルズソングの産駒。

同母父で父がハーツクライの産駒に
2017 年の当レース 2 着スワーヴリチャード。
2020 年 1 着コントレイルも同母父。

ハーツクライ産駒で母父が米国型血統。
母にシアトルスルーを持つ配合パターンは
昨年の勝ち馬ドウデュース、今年のオークス 2 着馬ハーパーとも同じ。

この配合パターンのハーツクライ産駒がダービーに向くことが生産者もわかっているから、狙って配合育成をされています。

トニービンの影響を受けた馬は、窮屈な競馬になる内枠は苦手。近3走はすべて苦手な内枠。今回は待望の外枠。

同じく外を回す競馬が得意なスキルヴィングもトニービンの影響を受けた馬。

前走は外枠だったが、今回は枠も逆転。逆転も可能。この馬にとっては在厩調整で絞れているのもプラスに作用しそう。トニービンは絞れた方が持ち味を発揮します。

ドウラエレデは先週のオークスで1、3着馬を出したドウラメンテ産駒。

近親に当レースでハナ差2着のサトノダイヤモンド。父も母父もダービー馬。

東スポ杯で馬が覚醒したと同時に、高速東京適性の高さペースが上がり、距離が延びてもスピードを持続できることも証明済み。

ソールオリエンス、スキルヴィングは父がキタサンブラック。母にトニービンと同じグレイソヴリン系のゼダーン。昨年2着イクイノックスと近い配合パターン。

目黒記念

< 亀AI注目馬 >

3, 7, 10, 13

< 最終見解 >

本命はゼツフィーロ。

2019年、2020年と2年連続で2着のアイスバブルと同じく母父が欧州型でコンパクト(前走馬体重470キロ以下)なディープ産駒。当レースの傾向に合う馬。

相手もディープ産駒。

プラダリアは小型のディープ産駒で母父ノーザンダンサー系。

サリエラはさすがに過剰人気ですが、傾向は合います。